希望と喜びの象徴であるような、このよき日に、相愛高等学校第 72 回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、浄土真宗本願寺派津村別院ご輪番山階照雄さま、大阪教区教務所長　山本政秀さま、育友会、後援会、同窓会の会長さまや多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、高いところからではございますが、厚くお礼申しあげます。

ただいま卒業証書を授与いたしました、117 名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。三年間の高校生活を終えて、皆さんはそれぞれの人生に向かって、本校を巣立っていくわけですが、三年という時の流れを振り返った時、皆さんの心の中は、きっと、充実した毎日を過ごすことができたという、すがすがしい満足感でいっぱいだろうと思います。

歴史と伝統ある相愛高等学校で、「當相敬愛」の精神に基づいて、はぐくんでこられた報恩と感謝の念、知性と教養、品格は、10 年後、20 年後の時代になっても、皆さんの心の中で命を持ち続け、その人生を支えていくものであってほしいと、私たち教職員は願っています。

さて、本日の輝かしい門出にあたり、皆さんへ三つのお願いをしまして、はなむけの言葉といたしたいと思います。

最初のお願いは、「志を持つ」ということです。これからの時代を生きていく皆さんには、自分の夢や希望をしっかりと持って、その実現に努力するとともに、社会の中での自分の役割を考え、生涯を通じて果たすべき「志」を持ってもらいたいと思います。例えば「研究者になりたい」という夢があれば、その実現のために勉学に励んでもらいたい。それと同時に、研究を通じて、「自分は社会のために何をなすべきか」を考え、例えば「困っている人のために少しでも役に立ちたい」という思いに至ったとすると、それはもう立派な「志」だと思います。仕事をするときの原動力となるでしょうし、研究の内容や質にも影響を及ぼしてくるでしょう。そのような「志」を持った多くの先人のおかげで、間違いなく世の中は発展してきたのだと思います。どうか、自分の「志」を立てていただきたいと思います。

次のお願いは、「心を耕す」ということです。人生を豊かに生きるため、また、人々と協働してよりよい社会をつくるため、基盤となる「心」を耕していただきたいと思います。ここでの「耕す」とは、様々な経験を通じて心を掘り起こし、未知の自分を知り、苦しいことや辛いことを乗り越えて、より

たくましく、より優しくなること、などを意味しています。もちろん、美しいものや素晴らしいものを見聞きし、感性が豊かになることも、また、読書をして人生の深さに気づき、生きるヒントを得ることも、心を耕すということです。大地を耕して、初めて豊かな実りが得られるように、心を耕して柔軟で強い精神を養っていただきたいと思います。困難や失敗、挫折や落胆こそが、心の肥料となるということを忘れないでください。

三つ目のお願いは、「言葉を磨く」ということです。人とつながり、互いを尊重・敬愛し、わかり合うために、自分の思いが相手の心に響くように、言葉を磨いていきましょう。言葉ひとつで、人間関係は違った様相を呈してきます。言葉によって人は勇気づけられ、元気が湧いてきます。ときには、その人の人生を大きく左右することもあります。そのような言葉の力を知り、その力を獲得することで、よりよい人生を歩んでいきましょう。「言葉を磨く」ことは、永遠の営みです。どのような言葉を発すれば、相手に受け止められやすいのか、正確に理解してもらえるのか、生きる力となるのか、日々、意識をしながら、少しでも「温かい言葉」をかけていきましょう。

これからの長い人生をとおして、志を高く持ち続けて、心を耕し続け、言葉を磨き続けていってほしいと願っています。

卒業生の皆さんに、一つ忘れてほしくないことがあります。それは、この3年間、雨の日も風の日も、何かにつけて皆さんを支えてこられた、ご家族のことです。どうか、ご家族への感謝の気持ちを忘れないでください。今日こそ「ありがとう」の一言をぜひ伝えましょう。

終わりになりましたが、本日、卒業生を祝し、ご列席いただきましたご来賓、保護者の皆さまに、重ねてお礼を申しあげますとともに、今日まで本校に賜りましたご支援、ご協力に対しまして、深く感謝申しあげます。

令和の時代は、間違いなく皆さんが主人公です。大きな夢と希望を持って、ますます活躍されることを心からお念じ申しあげ、式辞といたします。

2020年2月29日

相愛高等学校
校長　安居健治